

日程:2016年5月15日(日)-16日(月)

場所:富山県富山市

参加国:G7各国(日、伊、加、仏、米、英、独)、EU

招聘機関:地球環境ファシリティ(GEF)、持続可能性を目指す自治体協議会(ICLEI)、OECD、UNEP、
国連グローバルコンパクト、100のレジリエント・シティ

議題:①気候変動及び関連施策 ②資源効率性・3R ③持続可能な開発のための2030アジェンダ
④生物多様性 ⑤化学物質管理 ⑥都市の役割 ⑦海洋ごみ

気候変動及び関連施策の結果

歴史的な転換点であるパリ協定の採択及び170カ国以上の署名を歓迎し、各国の貢献の早期かつ着実な実施によりリーダーシップを示すことを決意。できる限り早期の協定への参加に向け必要な国内措置を講じ、他国とりわけ主要排出国にも取組を奨励。

また、長期温室効果ガス低排出発展戦略の重要な役割を認識し、同戦略を可能な限り早期に、かつ十分にCOP21で定められた期限内に策定し提出することをコミット。

低炭素社会の実現に向け、効果的・効率的な政策ツールを組み合わせることで国内対策をとることや、環境・社会・企業統治(ESG)投資の促進及び金融システムのグリーン化を通じた経済システムの転換が不可欠であることを認識。また、**市場アプローチを含むカーボンプライシングはイノベーション及び低炭素投資の強化に効果的な手段であり、更に促進されるべき旨、強調。**

HFC削減に係るモントリオール議定書改正を今年採択することを支持し、本年のICAO総会において世界的な市場型措置に関する合意の重要性を強調。さらに、国内の適応を効果的に推進するための組織的対応・制度を強化することの重要性を確認。

